

# 2026年度 事業計画書

## 事業名

盲導犬事業 〈公1〉

社会適応推進事業 〈公2〉

管理部門 〈法人会計〉

自：2026年 4月 1日

至：2027年 3月31日

公益財団法人北海道盲導犬協会

札幌市南区南30条西8丁目1番1号

## 盲導犬事業 〈公益目的事業1〉

(2026年4月1日 ~ 2027年3月31日)

### ■ 盲導犬の育成・貸与事業

#### 1. 盲導犬訓練・貸与に関すること

- 1) 視覚障がい者への盲導犬貸与目標を11頭とする。
- 2) 2027年度の訓練犬を確保するため、1次適性評価と2次適性評価を実施して、15頭前後の訓練犬を決定し、効率よく訓練を行う。
- 3) 盲導犬ユーザーのサポート体制を安心・安全の観点から強化する。
  - ・盲導犬のハーネスの改良、犬具類の見直しを行う。
  - ・アニマルウェルフェアの観点から、盲導犬の日常管理意識の強化を図る。
- 4) 訓練犬の日常管理を充実させる。
  - ・手入れ、運動、シャンプーなど管理面の充実を図り、ハズバンドアリートレーニング、トイレトレーニングを早期から導入して扱いやすい犬を目指す。
- 5) 訓練士・指導員の養成を行う。

#### 2. 繁殖に関すること

- 1) 2027年度に15頭前後の訓練犬が確保できるように出産頭数60～75頭（出産件数15腹前後）を計画する。
- 2) 繁殖犬として新たに5～8頭（ラブラドル5～6頭、ゴールデン2頭）を確保して、繁殖犬の質の維持・向上に努める。
- 3) アジアガイドドッグスブリーディングネットワーク（略称：AGBN）のGD-Bartテストに取組み、交配計画の情報としていけるようデータ整理をする。

- 4) 繁殖犬飼育委託ボランティアに向けた年間繁殖計画の説明会を実施する。
- 5) 飼育委託犬に対して遺伝子病検査を実施する。
- 6) IWDR (International Working Dog Registry) に加入して、データベースを整理する。

### **3. パピーウォーキングに関すること**

- 1) 2027年度 訓練犬・繁殖犬適性評価対象となる子犬を50～55頭委託する。
- 2) パピーウォーカーを対象とした飼育講習会を実施する。
  - ・委託終了までの間に、講習会を5回、および家庭訪問を3～4回実施してパピーの飼育指導にあたる。
- 3) トイレトレーニングについて効果検証をする。

### **4. ケネル・老犬ホームに関すること**

- 1) 老犬飼育委託家庭への定期訪問を行い、高齢犬や病犬の飼育環境を整えるアドバイスを行う。また、老犬来所の機会に犬の健康状態を把握し個々に合ったケアの充実を図る。
- 2) 引退犬飼育ボランティアに対し老犬講習会を開催する。
- 3) 老犬担当者の養成を行う。

### **5. 研修に関すること**

- 1) 外部研修の活用により、職員のスキルアップを図る。
  - ・全国盲導犬施設連合会加盟施設職員相互研修会の参加
  - ・視覚障害リハビリテーション基礎講習会の受講

- ・国際盲導犬連盟2026カンファレンスの参加

## 6. 犬具飼料等の頒布に関すること

- 1) 盲導犬ユーザー、飼育ボランティアの負担を軽減するため犬具・飼料を低価格で仕入れ頒布する。
- 2) 盲導犬ユーザー、視覚障がい者に歩行補助具・日常生活用具の情報提供と頒布により日常生活を支援する。

## ■ 普及啓発事業

### 1. 盲導犬の普及啓発に関すること

- 1) 視覚障害者向け盲導犬宿泊体験会1回、個別体験会8名を実施する。
- 2) 道内外の行政機関、盲学校、視覚障がい者団体等と連携し、盲導犬歩行体験を実施する。
  - ①行政機関2件
  - ②盲学校2校
  - ③各地域の当事者団体の総会、行事等3件
- 3) 施設や団体を対象に、盲導犬受入れへの理解促進を目的とした講習会を実施する。
  - ・視覚障がい疑似体験、介助方法実習を取り入れた盲導犬受け入れ・接客対応の講習会を道内で2回実施する。
- 4) 教育機関、福祉事業者、自治体等が実施する盲導犬講習会へ講師を派遣し、盲導犬および視覚障がいに関する情報・知識を提供する。
- 5) 関係団体、商業施設、支援企業等の協力を得て、盲導犬の理解促進を目的とした啓発キャンペーン活動を積極的に実施する。
- 6) 個人を対象とした施設見学会を9回開催するほか、団体見学の受け入れを積極的に行い、盲導犬育成事業への理解促進を図る。

また、盲導犬体験プログラムとして、模擬コースを使用し、参加者に対して盲導犬による体験歩行を実施する。

7) 協力者を対象として、「2026ガイドドッグオープンデー」を4月26日に開催する。

8) 自治体窓口、同行援護事業所、相談支援事業所を訪問し、当会の事業概要、訓練内容、盲導犬の利用方法に関する資料提供および説明を実施することで、地域における支援体制の理解促進を図る。

9) 盲導犬の普及啓発を目的としたオリジナル商品を製作・頒布し、盲導犬育成事業への理解と募金協力につなげる。

・新商品4点の企画・制作および販売開始

10) 広報誌「北の盲導犬だより ミーナ」を年2回、各18000部発行する。

## ■ 調査研究事業

### 1. 調査・研究に関すること

1) A G B Nが取り組む期待育種価算出プログラムの精度向上に協力する。

2) 視覚障がい者の行動範囲の拡大につなげるため、歩行支援機器を活用した歩行について検証を深める。

・盲導犬ユーザーに使用してもらうなどして1次情報を収集して検証を深めていく。

## ■ その他事業

### 1. 財源確保に関すること

1) サポート会員の新規会員目標は300名とする。また、サポート会員に対して計画的な継続支援依頼を行うとともに、法人会員、個人マンスリー会員の拡

大に向けた取り組みを行う。

【入金件数】 個人会員2,300件 法人会員70件

- 2) 募金箱設置店への募金訪問回収と送金依頼を計画的に実施し財源確保を行う。また、新規設置目標は100件とする。その他、既存設置店の設置状況を随時確認し、適切な募金箱管理を行う。

【入金件数】

札幌市内訪問回収：2,800件 札幌市除く道内及び道外送金依頼：2,000件

- 3) 街頭等での募金活動を実施し、財源の確保、盲導犬の啓発、ならびに協力者の拡大を図る。

・活動場所は、IKEUCHI GATE12回、札幌駅前通地下歩行空間2回、秋田1回、帯広1回を予定する。

- 4) 継続支援ツールとして年表カレンダーの作成・協賛企業の募集・配布を行い、継続率向上に繋げる。

【制作枚数】 5,000枚 【募集協賛企業】 7社

- 5) 支援者情報の一元管理により事務作業の効率化を図る為、新たな支援者管理システムを導入する。

## 2. 関連団体との協力連携に関すること

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会、認定NPO法人全国盲導犬施設連合会、北海道盲導犬ユーザーの会、その他各地域にある当協会盲導犬使用者の会の各事業に協力する。

## 社会適応推進事業 〈公益目的事業2〉

(2026年4月1日 ～ 2027年3月31日)

### 1. 生活訓練の実施に関する事

- 1) 短期入所訓練を実施する。実施回数及び指導数は10回、18名以上、うち、新規訓練希望者は5名を目標とする。また、ケース会議を訓練毎に実施し、訓練達成度の確認を行い、今後の訓練計画を決定する。

開催日程予定

第1回 3/30～ 4/10、第2回 5/11～ 5/29、第3回 6/15～ 7/ 3

第4回 7/20～ 7/31、第5回 8/17～ 8/28、第6回 9/28～10/16

第7回 11/ 2～11/13、第8回 11/30～12/11、第9回 1/11～ 1/22

第10回 2/ 8～ 2/19

- 2) 通所及び訪問による指導を行う。指導数は月5ケースとする。また、ケース会議を3か月ごとに実施し、訓練の進捗状況の確認と今後の訓練目標の設定を行う。

※通所及び訪問による指導ケース数は、各受講者の訓練期間により変動するため、月単位で同時に受け入れ可能な訓練ケース数を示した。

### 2. 視覚障害リハビリテーションの普及啓発に関する事

- 1) 道内で開催する相談会をさらに充実させ、今まで当協会の事業と関わりのない方々へ、当協会の盲導犬事業、生活訓練事業を知ってもらうきっかけづくりとする。

- ・開催案内の告知対象をさらに拡大し、今まで関わりの少なかった団体等へも当協会の事業について情報提供を行う。
- ・マスコミ等を活用することにより、団体等と関わりが少ない当事者への告知機会の拡大を図る。
- ・相談会の内容充実のため、他団体への協力依頼を行う。
- ・地域との繋がりをより深めるため、開催予定の地域を中心に役所及び関連団体を直接訪問し、啓発活動を実施する。
- ・盲導犬普及イベント「ちょっと知りたい盲導犬」を同時開催し、地域の方へ当協会の事業を知ってもらうきっかけとする。

2) 当協会の盲導犬事業及び生活訓練事業の利用者の拡大に繋げるために、道内の視覚障がい者や関係者からの個別相談に積極的に対応する。

3) ロービジョンケアの集まりや視覚障がい者団体等の行事に参加し、盲導犬や生活訓練に関する情報提供を行う事で、盲導犬使用希望者、生活訓練受講希望者を顕在化する。また、団体等の要請に応じて行事の開催・運営に協力する。

(参考)

○「ロービジョンケアの集まり」とは、視覚障がい当事者とその家族、歩行訓練士、視能訓練士などの専門職が自由に相談や意見交換を行う場で、札幌、旭川、帯広の3ヵ所で行われている。受障後間もない方の参加もありピアカウンセリングの場としての役割もある。

○本項での「視覚障がい者団体等」とは、札幌市視覚障害者福祉協会、北海道視覚障害者福祉連合会といった各地の当事者団体や札幌市視聴覚障がい者情報センター、視覚支援学校といった関係機関を指す。

- 4) 道内の視覚障がい当事者及び医療・福祉・教育等の関係者に視覚障害リハビリテーションを普及啓発するため、北海道眼科医会と協力し「第5回ロービジョンケア講習会」を開催（2026年5月9日予定）する。
- 5) 視覚障害リハビリテーションの普及啓発に取り組むため、道内の医療機関を対象とした日常生活用具展示会及び相談会をさらに充実させる。
- 6) 視覚障がい者の外出を支援し、地域との繋がりを深めるために、相談支援事業所や家族、同行援護従事者及び移動支援従事者等、視覚障がい当事者を地域で支援する方に対し、各種研修や情報提供等を通じてサポートを行う。
- 7) 生活訓練受講者及び相談利用者へ、協会行事や訓練、日常生活用具等の情報提供を様々な方法を通じて実施する事で、生活訓練の再受講のきっかけをつくる。また、協会利用者のデータベースを活用し、告知の効率化を図る。
  - ・協会YouTubeでの生活訓練紹介動画等の公開。
  - ・協会Xでの情報提供。
  - ・郵送での盲導犬個別体験会、相談会等の告知の実施。
- 8) 相談会や医療機関向け展示会及び入所訓練や相談対応等の内容、入所生居室環境の向上を図るため、各種用具の充実を図る。

## 管理部門 <法人会計>

(2026年4月1日 ~ 2027年3月31日)

1. **理事会・評議員会・三役会により、効果的に法人業務の意思決定等を行う。**
  - 1) 理事会は、年3回を予定する。
  - 2) 評議員会は、年2回を予定する。
  - 3) 三役会、経営会議は毎月開催する。
  
2. **施設整備を段階的に進める。**
  - 1) 訓練棟及び本棟の照明一部の更新工事
  - 2) 本棟の給水配管更新工事
  - 3) 所内ネットワークのセキュリティ対策更新工事
  - 4) 所内無線LANアクセスポイントの更新工事
  - 5) 盲導犬訓練用車両の更新
  
3. **職員の就業環境を向上させるため、諸規程の改正を進める。**
  
4. **新公益法人会計基準への移行に向け、必要な対応及び準備を計画的に進める。**
  
5. **持続的な成長と発展を遂げるための指針を明確にするため、中長期計画の策定を進める。**
  
6. **自然災害や事故など緊急事態発生時においても、重要な業務を継続できる体制を整えるため、BCP（事業継続計画）の策定を進める。**